


原 発 本 第 65 号
平 成 29 年 6 月 13 日

原子力規制委員会 殿

福岡市中央区渡辺通二丁目1番82号
九州電力株式会社
代表取締役 瓜生道明
社 長



工事計画認可申請書の一部補正について

平成 25 年 7 月 12 日付け発本原第 95 号をもって申請しました工事計
画認可申請書(平成 29 年 4 月 6 日付け原発本第 4 号にて一部補正)に
ついて、別紙のとおり一部補正します。

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称、種類、出力、回転速度、燃料の種類及び使用量、個数並びに取付箇所並びに過給機の種類、出口の圧力、回転速度、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後				
名 称			ディーゼル発電機 内燃機関 (注1)		ディーゼル発電機 内燃機関 (重大事故等時のみ3,4号機共用)				
機 関	種 類	—	ディーゼル機関		変更なし				
	出 力	kW/個	7,100 (7,355 (注2) (注3))						
	回 転 速 度 (注4)	min ⁻¹ (注5)	450						
	燃 料	種 類	—	A重油 (注6)					
		使 用 量	ℓ/h/個	■					
	個 数	—	2						
	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	Aディーゼル発電機内燃機関 Aディーゼル発電機 (注7)			Bディーゼル発電機内燃機関 Bディーゼル発電機 (注7)	3-3-A 3-3-B EL.3.80m 以上 EL.3.80m 以上	
		設 置 床	—	(注1) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m			(注1) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m		
		溢水防護上の区画番号	—	—					
		溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	—					
過 給 機	種 類	—	遠心送風機		変更なし				
	出 口 の 圧 力	kPa	177 (注3)						
	回 転 速 度 (注4)	min ⁻¹ (注5)	17,600						
	個 数	—	4 (機関1台当たり2) (注8)						
	取 付 箇 所	—	機関と同じ						

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には、内燃機関の出力として「10,000PS/個」と記載。

(注3) SI単位に換算したものである。

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

- (注5) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「rpm」と記載。
- (注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「JIS 1種2号重油」と記載。
- (注7) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。
- (注8) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (機関1台当り2)」と記載。

以下の設備は、既存の4号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

- ・常設

- ディーゼル発電機内燃機関（4号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変 更 前		変 更 後	
名	称		ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ ^(注1)		ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ (重大事故等時のみ 3,4 号機共用)	
種	類	—	うず巻形 ^(注2)		変更なし	
容	量	m ³ /h/個	■■■■以上 (195 ^(注3))			
個	数	—	2 (機関 1 台当たり 1) ^(注4)			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	A シリンダ冷却水ポンプ ^(注2) A シリンダ冷却水ライン	B シリンダ冷却水ポンプ ^(注2) B シリンダ冷却水ライン		
	設 置 床	—	原子炉周辺建屋 EL.11.3m ^(注2)	原子炉周辺建屋 EL.11.3m ^(注2)		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		3-3-A	3-3-B
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		EL.3.80m 以上	EL.3.80m 以上

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注3) 公称値

(注4) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「2 (機関1台当り1)」と記載。

以下の設備は、既存の4号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

- ・常設

- ディーゼル発電機シリンダ冷却水ポンプ（4号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）

・常設

			変更前		変更後	
名 称			ディーゼル発電機 ^(注1)		ディーゼル発電機 (重大事故等時のみ3,4号機共用)	
種 類	—		^(注2) 横置・突極回転界磁形・ 開放防滴自己通風・三相同期発電機		変更なし	
容 量	kVA/個 ^(注3)		8,875			
主 要 寸 法	全 長	mm	3,480 ^(注4) ^(注5)			
	全 幅	mm	4,000 ^(注4) ^(注5)			
	全 高	mm	3,075 ^(注4) ^(注5)			
力 率	%		80 (遅れ)			
電 圧	V		6,900			
相	—		3			
周 波 数	Hz		60			
回 転 速 度	min ⁻¹ ^(注6)		450			
結 線 法	—		星形			
冷 却 方 法	—		空冷			
個 数	—		2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	Aディーゼル発電機 —	Bディーゼル発電機 —		
	設 置 床	—	^(注4) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m	^(注4) 原子炉周辺建屋 EL.11.3m		
所	溢水防護上の区画番号	—	—		3-3-A	3-3-B
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		EL.3.80m 以上	EL.3.80m 以上

(注1) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。

(注2) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「横置・突極回転界磁形・開放防滴自己通風・三相同期発電機」と記載。

(注3) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「kVA」と記載。

(注4) 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

(注5) 公称値

(注6) 記載の適正化を行う。既工事計画書には「rpm」と記載。

以下の設備は、既存の4号機設備であり、本工事計画で重大事故等時のみ3号機及び4号機共用とする。

・常設

ディーゼル発電機（4号機設備、重大事故等時のみ3,4号機共用）